

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	西東京市住吉町3-14-14
園名	すみよし保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本の世界に入ってみよう！

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

棚に絵本を置いておくと、保育者に絵本を読んでとリクエストをしたり、読み聞かせをすると絵本の言葉を真似たり自分で動きを考えて、動かしている姿が見られた。

2. 活動スケジュール

『うたえほん』や『いってきまあす!』などの絵本を何度も読み聞かせしてきた。
11月には絵本の世界を想像・体験できるような一本橋や山のクッションなどを使った運動遊びを行った。
12月には『あーそーぼ』の絵本を題材に、大きな画面に絵本を映し、絵本の世界に入り込んで遊びを楽しめるようにする。
2月には「ノンタンのぱっぱらばなし」の絵本を大きなスクリーンに映し、絵本の世界に入り込んで遊びを楽しめるようにする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

11月：山型のクッション・一本橋・ついたて・フープ・マット

12月：プロジェクターでスクリーンに絵本を映す。

4つのコーナーを作る。(ままごと・人形・山型のクッション・ドレミマット)

2月：プロジェクターでスクリーンに絵本を映す。

ドレミマット・エバーフォミング・新聞紙

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 11月 『いってきまあす!』の絵本に出てくる道のりを模したフープや山などを設置し、運動遊びを実施した。
- 12月 『あーそーぼ』の絵本をプロジェクターで映し、ままごとなど絵本の内容と同じような遊びができるように設定し、実施した。
- 1月 「ノントン ぱっぱらばなし」の絵本をプロジェクターで映し、ドレミマット、エバーフォーミング等を設置し、新聞紙ちぎりを設定した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【11月】

- ・一度クマになりきると、しばらくの間クマになりきっている子どもがいた。保育者の動きや言葉だけでなく自分で考えてなりきっている様子が分かった。
- ・絵本を見てから、クマのイラストを見せると「パパ!」「ママ!」などと言って関連付けていることが分かった。

【12月】

- ・普段読み聞かせをしている絵本でも、手持ちサイズの本よりも大きな画面に映し出すことで、これまでにはない視点で絵本を見ることができ、色々な気づきを得られていた様子があった。
- ・絵本に出てくる遊具を用意することで、絵本の内容を思い出しながら真似て遊ぶ場面が見られた。また、遊びを通して他児とのやりとりを持つ姿も見ることができた。

【1月】

- ・大きなスクリーンに映った画面を見てノントン!と喜ぶ。絵本を見た後ドレミマットを道に見立て、エバーフォーミングを家に見立て用意した。ドレミマットを通ると音が鳴り不思議そうに手で押している子どももいた。家の中に入り保育者が新聞紙ちぎりを始めると、新聞紙を手に取り、ちぎったり丸めたり投げたりする。「ええー」と言いながら投げる子がいた。新聞紙に寝そべる子どももいた。エバーフォーミングで見立てた家の外側にいた保育者に「中に入って」と言う子がいた。一人の子が「おしまいにする」と言うとき他の子が「はい、おかたづけー」と言い始める。保育者が、新聞紙を入れる袋を用意すると、「ぼーい!」「もうちょっと!」と言いながら袋に入れお片付けをして終了した。

【11月】



【12月】



【1月】



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【11月】

- ・一度クマになりきると、しばらくの間クマになりきっている子どもがいた。保育者の動きや言葉だけでなく自分で考えてなりきっている様子が分かった。
- ・絵本を見てから、クマのイラストを見せると「パパ!」「ママ!」などと言って関連付けていることが分かった。

【12月】

- ・普段読み聞かせをしている絵本でも、手持ちサイズの本よりも大きな画面に映し出すことで、これまでにはない視点で絵本を見ることができ、色々な気づきを得られていた様子があった。